

2. 火山の概況 (平成 15 年 7 月 10 日 ~ 平成 15 年 7 月 16 日)

浅間山では地震がやや多い状態が続いた。三宅島では噴煙活動が継続した。阿蘇山では中岳第一火口の浅部の熱的な活動が活発で土砂噴出があった。桜島、薩摩硫黄島では噴火があった。諏訪之瀬島では微動があった。

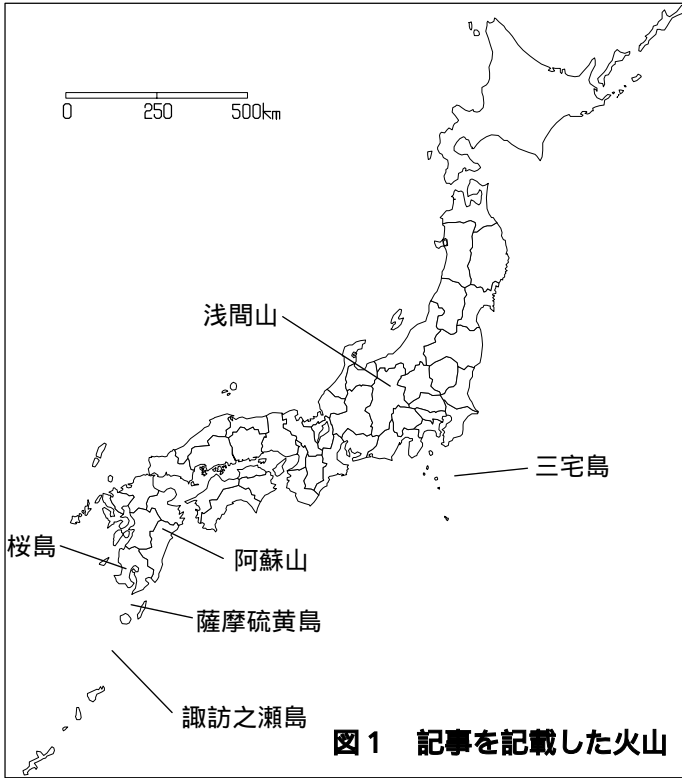


表 1 最近 1 か月に記事を記載した火山

| 号 | 対象期間 | 十勝岳 | 樽前山 | 蔵王山 | 浅間山 | 伊豆東部火山群 | 三宅島 | 阿蘇山 | 桜島 | 薩摩硫黄島 | 諏訪之瀬島 |
|----|------------|-----|-----|-----|-----|---------|-----|-----|----|-------|-------|
| 29 | 7/10- 7/16 | | | | | | | | | | |
| 28 | 7/ 3- 7/ 9 | | | | | | | | | | |
| 27 | 6/26- 7/ 2 | | | | | | | | | | |
| 26 | 6/19- 6/25 | | | | | | | | | | |
| 25 | 6/12- 6/18 | | | | | | | | | | |

注 1 記号の意味

- ：噴火した火山
- ：観測データ等に变化があった火山
- ：前期間までに掲載した火山の、その後の状況等

注 2 本文の火山名の後の[噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等]は、变化があった観測データ項目を示す。

浅間山 [地震・微動・熱・火山ガス]

6 月末頃以降、やや多い状態となった振幅の小さい地震は、7 月 5 日～ 8 日に日回数が 80 回を超えたのをピークに若干減少傾向がみられるが、11 日に 85 回、12 日に 71 回、15 日に 68 回と時折多くなり、依然としてやや活発な状態が続いている。この地震活動に関連して、その他の観測データに異常な変化はなかった。

振幅の小さい微動が 11 回発生したが、火山灰の噴出は確認されなかった。

群馬県林務部設置の高感度カメラ及び赤外カメラによる火口内の観測では、火口底が明るくなる現象が引き続き観測された。

噴煙の状況は、雲による視界不良のため確認できなかった(前期間の最高は 300m)。

15 日に実施した火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は日量約 300～400 トンで、前回(4 月 18 日、約 500～1,100 トン)に比べて減少し、昨年 7 月 4 日に観測を開始して以降では、昨年 10 月 10 日の約 200～400 トンと並んで少ない量であった(図 2)。

GPS による地殻変動観測では、特に異常な変化は観測されなかった。

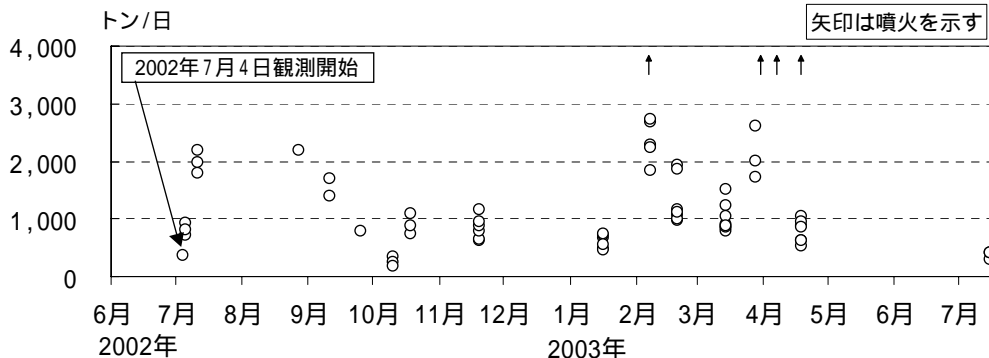


図 2 浅間山 二酸化硫黄放出量の推移 (2002 年 7 月 4 日～2003 年 7 月 15 日)

三宅島 [噴煙・地震]

監視カメラによる観測では、白色噴煙は連続的に噴出しており、高さの最高は火口縁上 600m (17 日)であった(前期間 800m)。

振幅の小さいやや低周波の地震が時折やや多くなり、15 日には 52 回発生したが、噴煙の状況等その他の観測データに変化はみられなかった。

GPS による地殻変動観測では、特に異常な変化は観測されなかった。

阿蘇山 [熱・土砂噴出・降灰・地震]

浅部の熱的な活動が高まっていた中岳第一火口では、10 日 17 時 18 分頃、土砂噴出が発生した。阿蘇山測候所が調査したところ、同火口の東北東約 6 km の箱石峠付近で微量の降灰が確認された。その後の熊本大学・阿蘇火山博物館・森林総合研究所及び産業技術総合研究所の調査によると、火山灰が降った領域は中岳第一火口から東北東へ約 14km、幅は 1 ~ 2 km 程度で、総堆積量は 130 トン程度と見積もられた。阿蘇山における土砂噴出の発生は 2001 年 4 月 7 日以来、山麓での降灰確認は 1994 年 9 月 29 日以来である。

この土砂噴出に伴いやや振幅の大きな震動が観測されたが、空振は観測されなかった。その後、同様の震動波形が 12 日に 2 回、14 日に 1 回観測されたが、いずれも振幅は 10 日 17 時 18 分のものに比べて小さなものであった。10 日より小規模の土砂噴出が発生したとみられるが、悪天候等のため詳細は不明である。

中岳第一火口内の湯だまりの状況は、11 日、15 日に実施した現地観測によると、これまで緑色であった湯の色が灰色に濁り、茶色の浮遊物が認められた。湯量は大雨のため一時 10 割に戻ったが、依然として減少傾向がみられる。湯だまり表面の温度の最高は 79 (前回(2 日)72)とさらに上昇し、噴湯現象が引き続き確認された。

噴煙の状況は、少量の白色噴煙が連続的に噴出しており、最高は火口縁上 500m で特段の変化はなかった(前期間は 200m)。

その他、6 月 29 日から多くなった微小な B 型地震は、今期間もやや多い状態で推移した。日回数は 8 ~ 31 回、合計は 117 回であった(前期間は 128 回)。また、孤立型微動はやや増加し、日回数は 43 ~ 73 回、合計は 384 回(前期間は 106 回)であった。A 型地震の発生状況、地殻変動等その他の観測データには異常な変化は観測されなかった。

- 1) 土砂噴出：火口底噴気孔からの火山ガス等の急激な噴出に伴い、湯だまりの湯や土砂を噴出する現象。噴出の勢いが強い場合、火口底などの破片を放出することもある。阿蘇山の中岳第一火口では、火山活動が高まるにつれて、湯だまりの湯量の減少～湯だまりの噴湯現象～土砂噴出～湯だまりの消滅・火口底の赤熱～本格的な噴火活動(多量の火山灰を噴出する噴火やストロンボリ式噴火等)へと推移することが知られている。

桜島 [爆発・空振・噴煙]

期間中、爆発的噴火が 1 回あった(噴火の発生は 5 月 23 日以来、爆発的噴火は 4 月 7 日以来)。これに伴い、鹿児島地方気象台(南岳の西南西約 11km)では、体感空振(小¹⁾)を観測した。爆発音及び噴石は確認されなかった。また、期間中、降灰は観測されなかった。

噴煙高度の最高は、13 日の爆発的噴火に伴う火口縁上 1,300m (灰白色)であった。

- 1) 体感空振(小)：注意深くしていると感じる程度。

薩摩硫黄島 [微動・降灰]

2 日 14 時 40 分に始まった連続微動が、ほぼ全期間にわたって継続し、火山活動はやや活発な状態で推移した。

鹿児島中央警察署硫黄島駐在所によると、島内の集落(硫黄岳の西約 3 km)で 15 日～17 日に少量の降灰が確認された。また、14 日には、同島の調査観測を実施した機動観測班が、帰路の船上(硫黄島の南東約 1km)で弱い降灰を観測した。

11 日～14 日にかけて実施した調査観測によると、硫黄岳山頂火口から白色噴煙が上がっていたが、特段の変化は認められなかった。

諏訪之瀬島 [地震・微動]

爆発的噴火はなかった。また、十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、島内の集落（御岳の南南西約4km）では降灰は確認されなかった。

前期間に一時多発した微小なB型地震は、6日以降は10～20回程度であったが、今期間の11日に一時増加し、日回数は39回となった。今期間の発生回数は85回であった（前期間223回）。また、継続時間の長い微動がたびたび発生した。

表2 火山情報発表状況

| 火山名 | 情報の種類及び号数 | 発表日時 | 概要 |
|-----|-------------------------|-----------|--|
| 浅間山 | 火山観測情報第8号 | 11日 15:40 | 微小な地震が増加。 |
| | 火山観測情報第9号 | 15日 15:30 | 微小な地震がやや多い状態が継続。 |
| 三宅島 | 火山観測情報第378号 (1日2回発表) | 10日 09:30 | 活動経過ほか（噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・地殻変動の状況、上空からの観測結果、及び上空の風・火山ガスの移動予想）。 |
| | 火山観測情報第391号 | 16日 16:30 | |
| 阿蘇山 | 火山観測情報第11号 | 11日 11:50 | 山麓で微量の降灰。 |
| | 火山観測情報第12号 | 14日 15:20 | 土砂噴出に伴うとみられる震動波形を観測。 |